能舞台など20以上の多彩な会場

水明館（岐阜県・下呂温泉）

日本三名泉の一つ、下呂温泉。飛騨川沿いに三つの館を連ね、さまざまなMICEニーズに対応しているが水明館(瀧康洋社長)だ。宴会場・会議場の数は、大小合わせて20以上。宴会は500人まで、シアター形式は800人まで対応する。近年珍しくなった畳に和膳の宴会も、500人規模で実施できるなど、その多彩さとキャパシティは他に類を見ない。

宴会場の多くがある臨川閣は、各所に美術品が配され、天井高6・5㍍の大空間と、加藤東一画伯の原画を元にした迫力ある緞帳(どんちょう)付きのステージが特徴の大広間「朝陽の間」と、広さ450平方㍍、木漏れ日が入り明るく開放的な雰囲気の「緑風の間」が並び、会議からレセプションへの移動がしやすい点が特長だ。1階にある春秋の間は、緞帳付き舞台がある500畳の宴会場で、和膳での宴会に対応できる。同じフロアには、10～30畳、6～15人ほどで利用できる純和室の小宴会場が10部屋ある。小グループでの会合はもちろん、大宴会場と組み合わせた運営など用途は幅広い。

大広間「朝陽の間」（スクール形式）

和膳での宴会に対応できる「春秋の間」

水明館は能舞台を持つことでも知られる。能舞台のある「石橋の間」は、シアター形式の会合ならば、200席設置できる。エクスカーションでの利用はもちろん、表彰などさまざまな用途に活用できる。重厚な雰囲気の欧風レストラン「バーデン・バーデン」も、ひと味違った着席会議などにおすすめだ。

これまでも「西日本経済協議会第66回総会」や2006年の「第57回全国植樹祭」のレセプションで会場として選ばれてきており、規模にかかわらずMICE実施実績は豊富。経験豊かなスタッフが、運営はもちろん、演出や記念品の選定などきめ細かにサポートする点も強みだ。

山水閣、飛泉閣、臨川閣のいずれにも大浴場があり、大人数であっても会合後に〝美人の湯〟として知られる下呂温泉をゆっくり楽しめる。

▽岐阜県下呂市幸田1268。☎0576（25）2800。https://www.suimeikan.co.jp/

能舞台が特徴の「石橋の間」

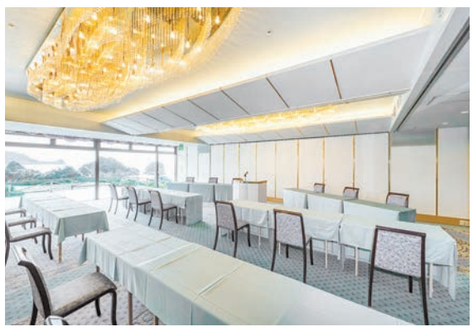
オーシャンビューの景観自慢

堂ヶ島ニュー銀水（静岡県・堂ヶ島温泉）

伊豆屈指の景勝地、堂ヶ島温泉にある堂ヶ島ニュー銀水(加藤晃太社長)は、海抜59㍍の高台に位置し、堂ヶ島のオーシャンビューを生かしたサービスが強み。ロビーや客室、浴場など館内のさまざまな場所から眺望を楽しめ、主力のコンベンションホール「銀麗(ぎんれい)」も、その景観を生かした造りが特徴だ。

4階の海沿いに面し、カーテンを開けると大きな窓から駿河湾を一望。開放感あふれる空間で、会議や研修に非日常感を添える。広さは322平方㍍、スクール形式で80人まで収容可能。最大3分割できる仕切りも備えており、メイン会場とサブ会場に分けたり、控室として活用したりするなど、用途に応じた柔軟なセッティングが可能だ。

宴会場の会議スタイル（スクール形式）


オーシャンビューが自慢のコンベンションホール「銀麗」

そのほか、9階にある大宴会場も会議室などとして利用でき（一部に限る）、収容人数はシアター形式で150人、スクール形式で120人。全123室の客室も全てオーシャンビュー。10畳以上でゆったりくつろげる和室の「スタンダード客室」から「ベッド付き客室」、6人まで利用できる「アップグレード和室」、檜(ひのき)を使用した展望風呂付きの「貴賓室」まで、滞在スタイルに合わせた多彩なタイプをそろえる。10月中旬から3月上旬ごろまでは、「日本の夕陽百選」に選ばれた美しい夕陽を客室から眺めることも。

料理にも力を入れる。団体・グループ向けの夕食会席では、駿河湾や相模湾で採れた新鮮な海の幸を中心に、お造りや金目鯛(きんめだい)の煮付け、和牛鉄板焼きなど総調理長自慢の数々を提供。アレンジにも対応し、最大200人まで収容可能な大宴会場、10人から利用できる個室の宴会場も備える。

海一望ダイニング「銀華」で味わう朝食も魅力の一つ。調理人がその場で焼き上げるだし巻き玉子や、伊豆半島全域の郷土料理「まご茶漬け」、焼きたてのクロワッサンなどをビュッフェ形式で提供する。

天然温泉が楽しめる展望大浴場や露天風呂をはじめ、展望ラウンジ、屋内外プール（夏季限定）、カラオケなど館内設備も充実。会議や研修の合間のリフレッシュや、滞在中の参加者同士の交流にも最適だ。

交通アクセスも充実し、東京駅からは特急「踊り子」とバスを利用して約3時間半。熱海駅、三島駅からもアクセスできるほか、清水港から駿河湾フェリーを利用するルートもある。

▽静岡県賀茂郡西伊豆町仁科2977の1。☎0558（52）2211。https://www.dougashima-newginsui.jp/

堂ヶ島の眺め

温泉で整うMICEを

琵琶湖グランドホテル 京近江（滋賀県・おごと温泉）

滋賀の誇りである琵琶湖。そのほとりに建つのが琵琶湖グランドホテル 京近江（金子博美社長）だ。京都から電車でわずか20分の距離ながら、おごと温泉の湯とともに琵琶湖の雄大な景色を楽しめることで知られる同館だが、県南部でも有数のMICE施設としても定評がある。

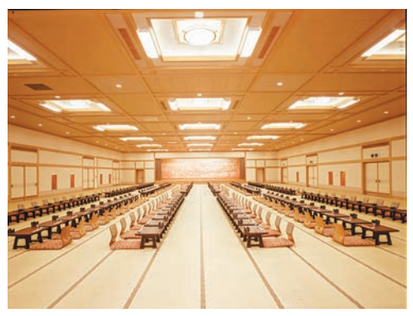
同館のコンベンションホール・宴会場は大小合わせて33カ所。10～800人まで、さまざまな会合に対応している。このうち最も広いコンベンションホール「瑞祥」は702平方㍍あり、イス席の場合は800人、スクール形式では480人、テーブルでの宴席も300人まで対応可能だ。各コンベンションホールともに分割可能であり、全体会から分科会まで一体的に実施できる。

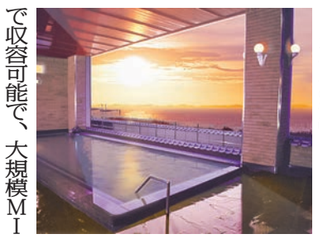
最も広いコンベンションホール「瑞祥」

会議・研修後に温泉みやげに入ってリラックスする。宿泊も最大約1千人まで収容可能で、大規模MICEでも宿泊や食事など全てを同館内で手配できる点もMICE専属の営業予約担当、フロント担当も置いており、幹事負担を軽減している。

好アクセスも魅力だ。JR湖西線で京都から20分、JRおごと温泉駅からは無料送迎バスを利用できる。車利用の場合も、京都から30分、大阪・奈良から60分。500台以上を収容できる無料駐車場も持ち、参加者がそれぞれ車で参加することが多い、華道、茶道の団体などから好評だ。

▽滋賀県大津市雄琴6の5の1。☎077（579）2111。https://www.biwakogh.co.jp/


500人まで可能な宴会場「京友禅の間」


琵琶湖を望む露天風呂「三上の湯」

多様な会場と館内施設

ホテル浦島（和歌山県・南紀勝浦温泉）

三方を海に囲まれた半島に、四つの建物を持つホテル浦島（松下哲也社長）。吉野熊野国立公園の雄大な自然の中で歴史を刻んできた同館は今年、創業70年を迎えた。今年8月1日には、日昇館などがリニューアルオープン。海を望む開放感あるライブキッチンの新設などで今また注目を集めている。

洞窟風呂「忘帰洞」を持つ温泉リゾートホテルとして国内外に広く知られる同館だが、最大160人を収容できる大宴会場をはじめ、さまざまな宴会場・会議室を備える南紀勝浦最大級のMICE対応温泉リゾートでもある。

日昇館3階に位置する311平方㍍のコンベンションホール「鳳凰」は同館最大の規模。シアター形式では360人、スクール形式では192人規模まで会議などを開催できる。宴席も150人まで対応可能だ。

さらに日昇館、なぎや懐かしい〝昭和レトロ〟なアーケードゲームが通路いっぱいに連なるゲームコーナーなど、2次会、3次会などに活用できる施設には事欠かない。

8月のリニューアルでは、海の中にいるような雰囲気の「海中スタンドバー」を新設。和歌山県内の日本酒や梅酒、ミカンジュースをワンコインで楽しめるほか、おつまみやミカンが取れるミニクレーンゲームも設置。ドリンクを片手に仲間同士で親睦を深めるのにうってつけだ。

▽和歌山県東牟婁郡那智勝浦町勝浦1165の2。☎0735（52）1011。https://urashimaresortsandspa.jp/wakayama-hotelurashima/

同館最大規模のコンベンションホール「鳳凰」

192畳の広さを誇る宴会場「亀宝」

三方を海に囲まれた立地

役員合宿や接待宿泊にも最適

奥日田温泉うめひびき（大分県・奥日田温泉）

大分県日田市大山町にある。観光経済新聞社主催の「人気温泉旅館ホテル250選」では、2022年度版をもって通算5年連続での選出となったことから、「5つ星の宿」にも認定されている。

開業から数年で確固たるブランドを確立した同館は、小中規模の研修旅行や会議・商談などにも対応している。

本館の会議室「豊後梅」は、広い窓から緑を望む開放的な空間が特徴。テーブルは10脚、椅子は20脚まで配置でき、Wi-Fiや電源などの設備はもちろん、プロジェクターやスクリーンも無料で貸し出している。声が十分届く空間のため、マイクは不要。室内では飲食も可能なほか、同じ本館内には喫煙所もある。

夕食時には、最大40人まで収容可能な大広間で料理を楽しみながら親睦を深める一。温泉旅館だからこその独創会席料理などが好評で、日ごろから多くの宿泊者から人気を集めている。

別邸客室からの絶景

緑を望む会議室「豊後梅」

40人まで収容可能な大広間

こうした設備・サービス面での充実度から、近年は職場の役員合宿や慰安旅行、取引先の接待宿泊などで利用されるケースも増えている。実績のある業界は、広告業、流通業、建設業、鉄道業など。

特に役員合宿や接待宿泊での利用は好評だ。非日常のリラックスした空間の会議室で集まることで、活発な議論や円滑な商談が実現。会議後は温泉や季節の料理を楽しみ、幹部が一枚岩になる機会の創出や、取引先との良好な関係構築をもセッティング可能。飲み放題にも対応しており、仕事仲間や取引先との歓談も心置きなく楽しめる。

客室も幅広いタイプから選択できる。最大6人までのグループに対応する本館客室に加え、より上質な空間を味わえる露天風呂付きの別邸客室は、幹部や取引先の宿泊利用に最適だ。

隣接する「梅酒蔵おおやま」では、梅酒の試飲や梅酒づくり体験、土産物選びも楽しめることから、一般社員を含めた職場旅行の満足度も高い。

プライベートだけでなく、ビジネス目的での宿泊旅行にも、ぜひ候補に入れたいおすすめの宿泊施設だ。

▽大分県日田市大山町西大山4587。☎0973（52）3700。https://www.umehibiki.jp/

週刊 観光経済新聞
観光経済新聞 kankokeizai.com

観光経済新聞は創刊1950年。
業界をリードし続ける、信頼と実績のある
「専門紙」です。

観光業界の“今”が分かる！

まずはお試し
無料会員登録は
こちらから

料金プラン
法人・個人問わず、観光にご興味のある方ならどなたでもご購読いただけます。

観光経済新聞（紙）
年間 19,800円
（税込み・送料込み）

観光経済新聞（電子版）
年間 13,200円
（税込み）

●1年間、ご指定の送付先に郵送でお届けします。
《毎週月曜日発行（通常月4回・12月は3回）》
電子版会員限定！ 広告なし※ で快適に閲覧
※Google 自動配信広告が対象
●電子版を1年間お読みいただけます。
●kankokeizai.com 有料会員記事を1年間お読みいただけます。

お申し込みは QR コードから

おトクなセット割（紙＋電子版）も登場！
年間 22,440円
（税込・送料込み）でお読みいただけます。

お問い合わせ先　購読担当　03-3827-9800　info@kankokeizai.com